

栢本天海堂 だより

平成29年 1月10日

第165号

年頭のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。
お客様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は日本にも少なからず影響を与える出来事が世界でありました。まずは何と言ってもアメリカの大統領選挙で共和党候補ドナルド・トランプ氏が第45代大統領への就任が決定したこと。環太平洋パートナーシップ（TPP）の交渉の行方が気になるところです。また、英国の欧州連合（EU）の離脱による世界経済への影響が懸念されます。

今年の干支は「丁酉」（ひのととり）に当たり、「丁酉」は過去の歴史から“改革の年”とも言われるようです。その“改革の言葉”からは、故松下幸之助氏（パナソニック創業者）の「他人の道に心を奪われ、思案にくれて立ちすくんでいても、道は少しもひらけない。道をひらくためには、まず歩まねばならぬ。心を定め、懸命に歩まねばならぬ。」を思い出し、まずは足元から見つめ直さなければなりません。

弊社は1932年（昭和7年）9月、創業者の栢本光司（右写真）が大阪の浄正橋で国産生薬の商いを始めたのが発端です。当時は生薬に関する文献や資料も少なく、品質の良し悪しといった基本は、仕事の合間に周囲の方々の教を請いながら、自分で体得していかなければならない時代でした。

そんな時代の中でも、真面目さと、まがい物は扱わない正直さを追求することで、皆様方から多くの信頼を頂いた事が、今の株式会社栢本天海堂の礎であることは言うまでもありません。現在に至ってはこれまでの伝統と信頼を引き継ぐとともに、未来に向けた意識・行動・システムの変革・革新、すなわち“改革”を進めなくてはならないと感じております。

弊社では、法令やGMPを遵守し、公定書（日本薬局方等）の規格に加えて、自主基準を設け、安全で安定した品質の商品の供給に努めております。お客様へより安全なものをお届けするために生薬の生産地状況の把握を行うべく、中国やその他の国へ産地状況の視察を実施しています。さらに、残留農薬試験等による安全性の管理を行い、また、栽培においてはトレーサビリティを重要視し、種苗管理、栽培（農薬）管理、加工管理などを



株式会社 栢本天海堂

本社	〒530-0053	大阪市北区末広町3-21	Tel 06-6312-8425
東京営業所	〒101-0047	東京都千代田区内神田 3-24-3 内神田STビル2階	Tel 03-3254-8161
福岡営業所	〒812-0013	福岡市博多区博多駅東2-15-19 KS-T駅東ビル2階	Tel 092-287-9333
柏原工場	〒669-3315	兵庫県丹波市柏原町大新屋	Tel 0795-72-3515
寝屋川物流センター	〒572-0075	大阪府寝屋川市葛原1-33-3	Tel 072-826-0269

漢方相談薬局・薬店運営サイト 漢方薬の **まぐすり.com** / オーガニック化粧品 PHYT'S

行っています。自然保護や資源確保の観点から野生品生薬の栽培化にも取り組んでおります。生薬・漢方専門業者である我々は、豊富な専門的知識と倫理観が必要です。高品質な生薬に国内外より収集した確かな情報を添えて提供することが我々の使命です。

これらを意識しながら、生薬の「安全」「安定品質」「安定供給」「安定価格」をお客様にご提供できるよう日々邁進して参ります。

今年2017年の漢字は「励」だそうです（熊野本宮大社）。「励」という漢字の中には万と力が含まれており、励まし、励まされながら、皆様と一緒に大きな和が生まれる年になればと願っております。

お客様におかれましては、末永く弊社とのお付き合いをお願いするとともに、これからもご指導とご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

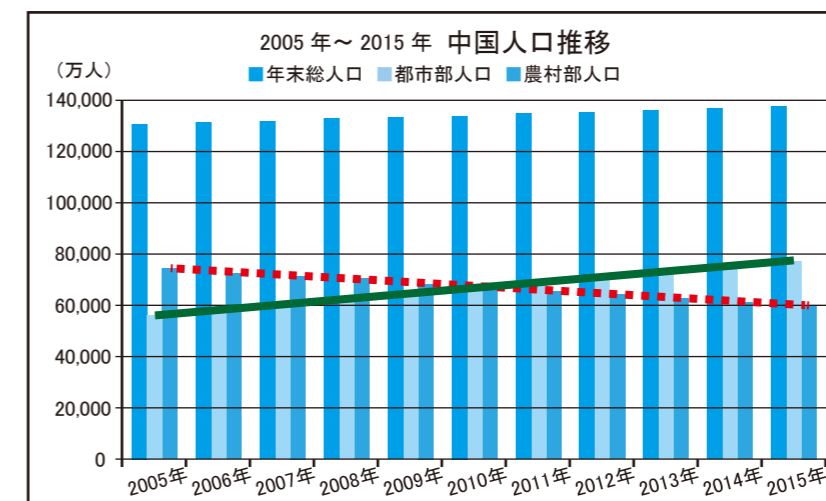
株式会社 栢本天海堂
代表取締役 栢本 和 男

2017年 生薬市場の展望

—中国農村部の変化—

はじめに

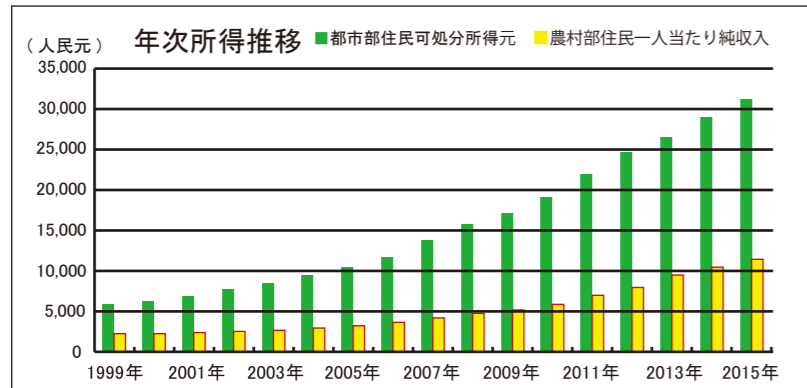
近年、中国の社会構成人口、経済格差状況が大きく変わってきている。下図は中国の



人口推移を示しているが、2010年を境に農村部の人口と都市部の人口が逆転している。2015年には都市部人口は77,116万人、農村部人口は60,346万人となり、農村部の人口減少が著明になっている。2005年と比較して農村部の人口は1億4千万人も

減少しており、農民工と云われる出稼ぎ農民の増加が都市部の人口を押し上げ、結果的に農村部での人口減少し、加えて高齢化、過疎化が大きく進んでいる。

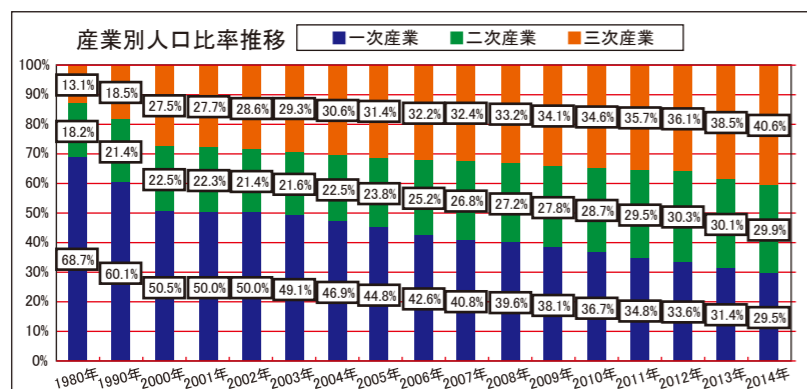
経済格差に関しては都市部と農村部の所得格差も年々拡大してきている。下図が示すように都市部、農村部とも所得は年平均11%の水準で上昇し、2015年は1999年と比較して所得は各々5倍にはなっているが、都市部と農村部の所得差は1999年の3,600元から、2015年には19,700元と格差は広がる一方である。



中国政府はこの格差を解消する事を目指して「新都市化」政策を2010年頃から進めている。

これは東部沿岸部に集中している経済発展を内陸部に広げていく政策で「城鎮化」と呼ばれ、大きな特徴は地方の

中小都市の開発を進め農民工に都市戸籍を与え、都市戸籍と同じ教育機会や社会保障などを提供し、沿岸部の大都市への人口集中の減少と、所得格差の解消を目指すことである。

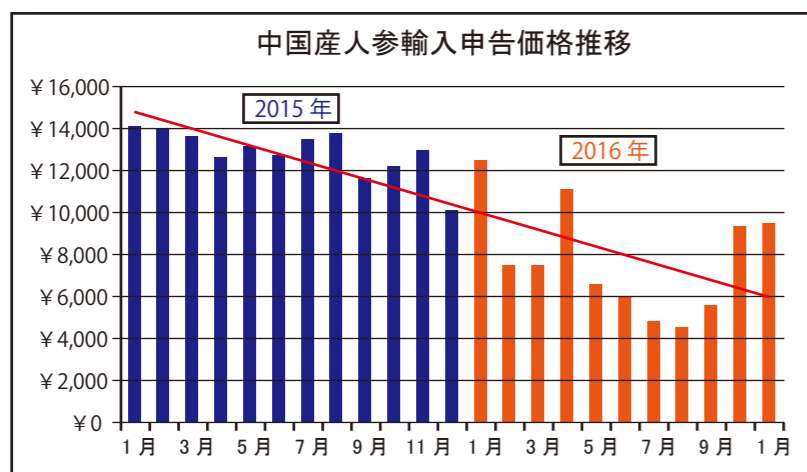


また、左図の産業別人口比率推移をみると一次産業人口（農業従事など）が2014年には全人口の29.5%まで減少している。

一次産業人口の減少は城鎮化政策により、加速的に拡大すると予想され、生薬生産に大

きく影響すると考えられる。農業従事者の減少が進むと生産性と経済性が重視され、採算性の悪い生薬の生産は減少し価格上昇につながる。また、農村部の城鎮化により農村部の所得は増大するが、それにともない生薬価格をも上昇させる。

■生薬市場の状況



2013年から急激に値上がりした輸入生薬の価格は2015年も高値が維持されてきたが、2016年には上がり過ぎた品目が是正され、全体的には値下がり相場になり適正価格に是正されてきたといえる。

左図は、最も値上がり幅が

大きかった中国産薬用人参の2015年1月から2016年11月までの、日本税関の輸入申告価格推移である。

2015年9月の生産期から生産量の増大で価格は下落傾向に推移し、2016年は2015年の50%近くまで値下がりしている。図表では2016年の1月、4月、10月、11月の平均単価が高く表示されているが、これは横浜税関で相場より高い価格で輸入申告された影響で平均単価が高くなっている。これは輸入申告会社の高値の契約残かあるいは契約上の理由での通関申告価格と思われる。

2016年後半に値上がりした品目は桂皮、大茴香、田三七、当帰、川芎、麦門冬、黄連、白芷、呉茱萸、五味子、白朮、蒼朮、薄荷、党参、黄芩、黄柏、葛根、連翹などであるが、多くは天候などによる減産が原因である。例えば呉茱萸などは市況が悪い事で農民の生産意欲が減少して価格が上昇、麦門冬は成長促進剤の使用制限等で生産が減少して値上がった様である。

2017年の生薬市場は、現在の価格水準が底値の品目が多く、買占めなど少しの要因で値上がりを示すと考えられる。特に気になる品目は牡丹皮で、栽培年数と芯抜き作業が手作業である事を考えれば、現状の相場は安過ぎる感がある。

■終わりに

中国農村部は高齢化、過疎化が進み生薬生産の従事者は年々減少する事を考えると家内工業的な零細農家の生薬生産は減少し、大中規模農地での機械化農業が主体となると思われる。機械化農業には設備投資が必要で市場規模と収益性が特に重視されるであろう。その為、需要量の少ない生薬は呉茱萸の様に大幅な値上がりの可能性が高いと思われる。また、中国政府の政策上、今後とも農村部の人件費は値上がりが続くことが予想され、その影響で生薬価格の上昇も懸念される。

中国国内の生薬需要も年々拡大しており、現状の様に100%近く中国に供給を依存する事は、日本の漢方業界にとってはリスクが大きく、国内生産を拡大する必要性を強く感じる。

株式会社 栃本天海堂
姜 東孝